

平成 28 年 1 月 29 日

女子体操競技情報 23 号

(公財) 日本体操協会
リオデジャネイロオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部
審判委員会体操競技女子審判本部

日本体操協会では、リオデジャネイロオリンピック強化委員会女子体操競技強化本部による
2016年強化指針と審判委員会体操競技女子審判本部による2016年採点指針、およびF
IGからの採点規則の変更、修正等をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

2016年 強化指針

リオデジャネイロオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部長
塚原 千恵子

全体として

第46回グラスゴー世界選手権大会においては、昨年度の第一優先課題であった団体8位に入賞してリオデジャネイロオリンピック（以下、リオO）の出場権を獲得することであったが、団体予選6位で通過し、その目的を果たすことができた。

今回のチームは補欠1の美濃部選手が怪我のため補欠2の村上選手を入れて、7名での選手団であった。怪我人が多く、人選には補欠2であった村上選手を正選手として起用する波乱のチームであったが、団体予選では失敗を最小限に抑え、6位でオリンピックの団体出場権を獲得した。団体決勝ではイタリアを抜いて更に順位を上げ、第5位入賞という結果で団体戦を終了した。前年度団体8位入賞チームのルーマニア・オーストラリア・ドイツの3カ国が今回予選を通過することができなかった事を考えると、いかに8位に入賞することが難しいか理解できる。日本チームは新人3名と経験者3名のチームであったが、安定感のある演技でそれぞれの選手が実力を発揮した大会であった。個人総合では村上選手が6位、寺本選手が9位になり、種目別ゆかにおいては、宮川選手が予選2位通過で決勝に臨んだが、着地の僅差でメダルを取ることができずに4位に入賞した。

団体予選の世界ランキングは、跳馬9位・段違い平行棒9位・平均台9位・ゆか4位で総合6位、団体決勝では跳馬5位・段違い平行棒4位・平均台7位・ゆか5位で総合5位であった。この結果から、平均台が予選9位・決勝7位であったことが問題点としてあげられる。新人の緊張もあったが、本来のDスコアがジャンプ系の正確さが不足して難度認定されずに格下げの難度となり、国内の採点より低くなかった。特に脚交差からの輪とび(E)や羊とび(D)が降格したり、技と技の組み合わせのリズムが途切れで組み合わせ点が取れなかった。リオOの代表選手を選考する大会においては特に厳しく評価し、世界レベルの視点で採点していくなければならない。段違い平行棒における世界トップクラスの演技構成は、移動技が多く宙返り等につなげてDスコアを上げている演技であった。日本も今後、移動技の多い構成でDスコアをさらに上げることが必要である。アメリカ・中国・ロシアの3強はアメリカ・中国・イギリスに変わり、ロシアがメダルを獲得することができなかった。イギリスの団体3位の勝因はロンドンオリンピックの強化システムが継続されている結果である。

日本女子の今後の課題は、チーム全体のDスコアアップであり、Dスコア5.8以上で14点台をとれる演技構成を考えていかなければならない。特に平均台・ゆかにおいては、芸術的な表現力とジャンプやターン等の難度がとれるように正確な技術を身に付け、アクロバットと組み合わせて失敗をしない競技力を強化していきたい。メダルのとれる可能性のある種目については、安定性のある着地の強化が必要である。

リオOに向けての選考方法は7名の候補選手を選抜し、いかにチームの貢献度が高くなるかという事を基準にして最終的に5名を選考したい。

日本チームは団体3位でメダル獲得を最優先とし、個人入賞、種目別3位を目標に選手強化を図っていきたい。

跳馬

- ・D スコア 5.8 点以上の跳躍
- ・着手時の肘の曲がりや足の乱れなど姿勢欠点のない演技
- ・高さと距離を伴うダイナミックな演技
- ・高い姿勢での安定した着地

段違い平行棒

- ・基本技術の姿勢不良（身体の反り、肘のゆるみ、脚の乱れ）の修正
- ・倒立局面の角度（10 度以内）の徹底
- ・空中局面を伴う技の高さ、回転不足、空中姿勢
- ・D、E 難度から組み合わせ点の獲得（両棒間の移動技の工夫）
- ・高い姿勢での安定した着地
- ・終末技は D 難度以上

平均台

- ・ふらつきのない安定した演技
- ・つま先、膝が伸びた脚のラインと体線の美しい姿勢
- ・跳躍技の高さ、開脚度（180 度以上）の正確な実施
- ・D、E 難度以上のターンや跳躍技
- ・アクロバットの高さと姿勢、安定した実施
- ・高い姿勢での安定した着地
- ・終末技は D 難度以上

ゆか

- ・アクロバット系の技は D、E 難度を含む構成（F、G 難度への挑戦）
- ・アクロバットの高さ・スピード・姿勢欠点のない演技
- ・アクロバットは安定性のある着地
- ・ダンス系は規定された姿勢や正確な実施
- ・顔の表情も含めた芸術的な動きによる演技と動きにマッチした音楽の選択
- ・C 難度以上のダンス系の工夫
- ・終末技は D 難度以上

2016年 採点指針

審判委員会体操競技女子審判本部

全体として

2015年グラスゴー世界選手権において、日本女子チームは欠点を最小限に抑えた演技を実施し、予選で第6位、決勝第5位という素晴らしい成績を収め、オリンピック団体出場権を獲得できたことは、日本女子体操界としては大変喜ばしい結果であったといえる。また、個人総合、種目別決勝においても、選手は遺憾なく力を発揮し、日本選手が国際舞台の場で世界の上位選手と対等に戦えることを十分アピールできた大会でもあった。チーム全体で大過失を最小限に抑え、審判に減点させるチャンスを与えない演技を実施できたことが今回の成績に結びついたのではないかと思う。今後の日本女子チームが更なる高い目標を達成させるためには、日本全体でDスコアを高めていかなければならないが、正確で安定した演技を実施できる競技力を持たずには成し得ることは困難である。正確な技の実施、安定した確実な演技を今後も引き続き評価していきたい。

今回素晴らしい成績を残すことができた日本チームであるが、上位国の選手と比較するとまだ課題も多く見受けられ、好成績を喜んでばかりもいられない状況である。特に段違い平行棒に関しては、上位国だけでなく今回出場した多くの国が多様な空中局面の技を複数組み合わせ、高いDスコアを獲得できる演技構成を実施しており、日本選手の演技構成とは明らかな差が見られた。多様な空中局面を伴う技の習得と、組み合わせ点を獲得できる組み合わせに取り組むことが急務である。これまで日本選手は美しい姿勢を評価されてきたが、今後は、その良さを生かした上で多様な空中局面を伴う技を複数組み入れた演技構成を望みたい。

平均台とゆかにおいては、予定しているDスコアを確実に獲得するために、また高いEスコアを獲得するためには、ダンス系の技をより正確に実施することが重要である。また、立ち姿勢を含めた常に美しい姿勢での演技はもちろんのこと、表情・視線がコントロールされ見ていて魅了する表現力を高めてもらいたい。表情が乏しい、視線の意識がない演技、また音楽のテーマを身体全体で表現できていない演技については、芸術性と振り付けの減点項目を有効に使って、芸術性の高い魅力的な演技とそうでない演技に明確な差をつけていきたい。

今後の方向性として、日本全体で高いDスコアを獲得すること、欠点のない質の高い演技を追求していくこと、どちらも重要な課題である。一つ一つの技の理想像を常に念頭に置き、理想とされる実施であるかをよく見極め採点をしていきたい。

また、これまですべての種目において美しい体線での演技とダイナミックな技の実施を重要な視点として採点してきたが、今年も立ち姿勢を含めた常に美しい姿勢での演技と、ダイナミックな技の実施は必要不可欠であり、引き続き採点上の重要な視点とする。

各種目

跳馬

【指針】

- 高さと距離を伴うダイナミックな実施。
- 着地の体勢が高く、安定した着地。
- どの局面においても欠点のない美しい姿勢での実施。

【採点上の留意点】

- それぞれの局面において姿勢欠点が見られる演技については、第10章「種目特有な実施減点」の減点項目に併せて第8章一般欠点「技と跳躍（跳馬）での姿勢と脚の位置」の減点項目を有効に使い、欠点のある演技とそうでない演技との差を明確につける。
- 技の理想像を常に念頭に置き、技の難易度から受けるダイナミックさも加味して採点をする。

段違い平行棒

【指針】

- 腕の曲がり、膝やつま先の緩みのない美しく伸びた体線での実施。
- 空中局面を伴う技の大きさとひねりを伴う技の正確な実施。
- 終末技の高い体勢での安定した着地。
- 多様な空中局面を伴う技を組み合わせた演技構成。

【採点上の留意点】

- け上がり、振り上げなどの基本技術の姿勢においても注視し、各技の欠点については、その都度個々に減点する。
- 上記指針の内容に対し、問題のある演技については、第8章「一般欠点と減点表」の減点項目および第11章段違い平行棒「種目特有な実施減点」を有効に使う。

平均台

【指針】

- 技だけでなく、立ち姿勢や動きも含め、常に美しい姿勢での演技。
- アクロバット系、ダンス系の技、組み合わせの正確な実施。
- リズムとテンポの変化に富み、全体に流れのある演技。
- メリハリのある多様な動きと手先足先までコントロールされた表現豊かな演技。
- 終末技の高い体勢での安定した着地。

【採点上の留意点】

- 上記指針の内容に対し、問題のある演技については、第8章「一般欠点と減点表」の減点項目と第12章平均台「芸術性と振り付けの減点」、「種目特有な実施減点」を有効に使う。

ゆか

【指針】

- －技だけでなく、立ち姿勢、動きの全てにおいて、常に美しい姿勢で観客を魅了する演技。
- －アクロバット系、ダンス系の技の正確な実施。
- －多様な技を組み入れ、演技面を万遍なく使用した、躍動感のある演技。
- －選手の個性に合った振り付けと音楽の調和、顔の表情や指先まで意識した表現豊かな演技。
- －着地の体勢が高く、安定した着地。

【採点上の留意点】

- －上記指針の内容に対し、問題のある演技については、第8章「一般欠点と減点表」の減点項目および第13章ゆか「芸術性と振り付けの減点」、「音楽性」、「種目特有な実施減点」を有効に使う。

【2013 FIG 採点規則の変更、修正、追加】

*FIG Newsletter#37

– 2.1.1 総則

【新しい解釈】

- d) 上級審判部の承認があれば減点を伴わずに演技全体のやり直しができる。
 - ・もし、演技の中止が選手に原因がない場合。
 - ・もし、ハンドガード（プロテクター）が著しく破損し、落下や演技の中止を引き起こした場合。選手は、演技のやり直しの許可を受けるために演技台を離れる前、速やかに壊れたプロテクターをD1審判員に見せなければならない。

注釈：演技のやり直しをする選手は、そのローテーションの最後に実施する。また、選手がそのローテーションの最後の演技者だった場合は、上級審判部の判断によって実施される。

– 8.3 一般欠点と減点表

(追加)

– 60秒以内に演技を開始しない	選手/当該種目	演技開始の権利はなくなる
------------------	---------	--------------

– 11.1 一般規則

b) 落下による中断時間：

器械から落下した場合、演技を続けるために再び段違い平行棒に戻るまでに30秒の中断が許される。

- もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点–0.30が適用される。
- 落下後、拳手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。
- 公式に演技が再開されるのは、演技再開のためにマットから足が離れた時からである。
- もし、選手が60秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

– 12.1 一般規則

c) 落下による中断時間：

器械からの落下による演技の中断は10秒まで許される。

- もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点–0.30が適用される。
- 落下後、拳手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。
- もし、選手が60秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

第2章 選手の規則

2.1 選手の権利

2.1.1 総則

選手には以下の権利が保証される：

- a) 演技は採点規則の規約に従い、正確で公平に採点される。
- b) 提出された新しい跳躍技や技についての難度評価は、競技開始前に書面で受け取ることができる。
- c) スコアはその競技会で定められた規則に従い、演技後直ちに公表される。
- d) 演技の中止が選手に原因がない場合、(減点を伴わずに) 上級審判部の許可により演技全体のやり直しができる。
 - ・もし、演技の中止が選手に原因がない場合。
 - ・もし、ハンドガード(プロテクター)が著しく破損し、落下や演技の中止を引き起こした場合。

選手は、演技のやり直しの許可を受けるために演技台を離れる前、速やかに壊れたプロテクターをD1審判員に見せなければならない。

注釈：演技のやり直しをする選手は、そのローテーションの最後に実施する。また、選手がそのローテーションの最後の演技者だった場合は、上級審判部の判断によって実施される。

- e) 一時的に選手が競技場を離れなければならない都合が生じた場合、審判長の許可があればそれは認められる。
注：競技が選手の不在によって遅れることのないようにする。
- f) 競技会でのすべてのスコアは、団長を通して正確な競技結果として受け取ることができる。

2.1.2 器械器具に関して

選手には以下の権利が保証される：

- a) 練習会場、サブ会場、競技会場は、FIG公式競技会の標準規格である同一の器械器具とマットが用意される。
- b) 10cmの着地用追加マットの上に跳躍板を置くことができる。(段違い平行棒、平均台)
- c) 段違い平行棒と小さな印を付けるための平均台上にマグネシウムの使用は認められる。
- d) 段違い平行棒では一人の補助者を置くことができる。

- e) 器具から落下した場合、段違い平行棒では30秒まで、平均台では10秒までの中断と身体的回復のための時間が許される。
- f) 器具から落下後、または跳馬での1回目と2回目の演技の間にコーチと相談することは認められる。
- g) もし選手の足がマットに触れてしまう場合、両棒を上げる申請ができる。

練習

予選(競技I)、個人総合決勝(競技II)、団体決勝(競技IV)

- その大会の競技規則に従い、各出場選手(怪我をした選手の代理も含めて)にすべての種目において、競技直前の演技台上での練習が与えられる
- 跳馬(団体および個人グループ)
予選(競技I)、個人総合決勝(競技II)、団体決勝(競技IV) - 2回の練習のみ
種目別決勝のための予選(競技I)、種目別決勝 - 最大3回の練習
- 平均台、ゆかでは、各30秒
- 段違い平行棒では50秒 - 棒の調節を含めて

注：

- 予選(競技I)と団体決勝(競技IV)では跳馬を除き練習時間の合計がチームに与られる。チームは最後の選手が練習できるように経過時間に注意しなければならない。
- 個人グループの練習時間は選手個人に与えられる。練習の順番は演技順であることが望ましい。
- 練習時間の終了は、ゴングによって合図される。もしこの時点で、選手が器械の上にいた場合、選手はやりかけた技や一連の運動を最後まで行うことができる。練習時間の後や「演技の間」では、器械器具の準備(段違い平行棒では最大2名が上がる)はできるが使用することはできない。
- D¹審判員からの演技開始の合図(FIG公式競技会では緑ライト)から30秒以内に演技を開始しなければならない。

2.2 選手の責任

- a) 採点規則を熟知し、自らそれに従って行動しなければならない。
- b) 選手またはコーチは新技評価のための申請を、公式練習の24時間前までに審判長へ書面で提出しなければならない。
- c) 選手またはコーチは段違い平行棒の棒を上げるための申請をその競技会で定められた競技規則に従い、公式練習の24時間前までに審判長へ書面で提出しなければならない。

8.3 一般欠点と減点表

欠 点		小 0.10	中 0.30	大 0.50	超大 1.00 以上	
- 競技場から離れたことで競技が完了できない				競技場から退場		
- 表彰式に参加しない(許可なく)				チームと個人の成績、最終スコアは無効(スコア/順位無効)		
- 理由なく競技を遅らせたり、妨害したりする				失格		
計時審判員からD審判団へ、書式通告による減点						
- はなはだしい練習時間の超過(警告後) • 個人	チーム 選手/当該種目	X X			最終スコアから	
- 緑ライトの点灯後 30秒以内に演技を開始しない	選手/当該種目		X			
- 60秒以内に演技を開始しない	選手/当該種目	演技開始の権利はなくなる				
- 演技時間の超過(BB、FX)	選手/当該種目	X				
- 赤ライトの点灯中、または合図がないのに演技を開始する	選手/当該種目				“0”	
- 中断時間の超過(UB、BB)	選手/当該種目				演技終了	

審判長による減点 (上級審判部との協議によって)	カードシステム FIG 公式または公認の競技会に適用
コーチの行動が選手/チームの演技/結果に直接影響しない	
- スポーツマンらしくない行動 (全競技、練習を通して適用)	1回目 - コーチにイエローカード(警告) 2回目 - コーチにレッドカード、そして競技場から退場させる
- はなはだしく不規律な態度や罵るような言動 (全競技を通して適用)	直ちにコーチにレッドカード、そして競技場から退場させる
コーチの行動が選手/チームの演技/結果に直接影響する	
- スポーツマンらしくない行動 (全競技、練習を通して適用) 例えば、理由なく競技を遅らせる、中断させる、認められているD ¹ 審判員への質問を除いて競技中に任務中の審判員と話す。 - 演技中に直接選手と話したり、合図、かけ声(応援)またはそれと同様な行動等	1回目 - 0.5 の減点(選手/チーム/当該種目) コーチにイエローカード(警告) 1回目 - 1.0 の減点(選手/チーム/当該種目) もしコーチが審判員に攻撃的に話をした場合イエローカード(警告) 2回目 - 1.0 の減点(選手/チーム/当該種目) コーチにレッドカード、そして競技場から退場させる
- はなはだしく不規律な態度や罵るような言動 (全競技を通して適用) 例えば、競技中規定人数以上のコーチが競技エリア内に入る	1.0 の減点(選手/チーム/当該種目)、直ちにコーチにレッドカード、そして競技場から退場させる*

注：もし、チーム2名のうち1名のコーチが競技場から退場になった場合、全競技を通して**1回のみ**別のコーチに替えることができる。(例、競技I)

1回目の違反=イエローカード

2回目の違反=レッドカード、コーチはそれ以降の競技から閉め出される。

*もし、コーチが1人のみで競技に残ることがあれば、次の世界選手権大会、オリンピックへの参加資格を失う。

第 11 章 段違い平行棒

11.1 一般規則

演技の採点は跳躍板またはマットを踏み切った時から始まる。跳躍板の下に補助器具（例：余分な板）を追加することは認められない。

a) 開始技

- もし選手が 1 回目の試みで跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりした場合:
 - 1.00 の減点
 - 選手は演技を開始しなければならない
 - 開始技の難度はなし
- もし選手が跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりしなかつた場合、2 回目の開始技(減点を伴う)が許される。
 - 1.00 の減点
- 3 回目の試みは認められない。

D 審判団は最終スコアからこの減点を行う。

b) 落下による中断時間 :

器械から落下した場合、演技を続けるために再び段違い平行棒に戻るまでに 30 秒の中断が許される。

- もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点 -0.30 が適用される。
- 計時は選手が落下後マットに立った時から始まる
- 落下の間、経過時間は秒単位でスコアーボードに表示される。
- 合図（ゴング）によって以下の経過時間を知らせる
 - 10 秒
 - 20 秒
 - 30 秒の制限時間
- 落下後、挙手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。
- 公式に演技が再開されるのは、演技再開のためにマットから足が離れた時からである。
- もし、選手が 60 秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

11.2 演技の内容と構成

終末技を含む最大8つの高い順からの技が難度点として数えられる。

価値部分は以下の運動の分類から多様性に富むように選択すべきである：

a) 回転系と振動系の技

- 後方車輪
- 前方車輪
- 振り出しと浮支持回転
- 前方/後方開脚浮腰回転
- 前方/後方足裏支持回転

b) 空中局面を伴う技

- 高棒からとんで低棒を握る（またはその逆）
- 切り返しを伴うとび（棒を越える）
- とび越し
- ヘヒト
- 宙返り

11.3 構成要求 (CR) -D 審判団 2.50

1	高棒から低棒へ移動する空中局面を伴う技	0.50 を与える
2	同一棒を再び握る空中局面を伴う技	0.50 を与える
3	異なる握り（振り上げ倒立、開始技、終末技は除く）	0.50 を与える
4	360 度以上のひねりを伴う空中局面を伴わない技 (開始技を含まない)	0.50 を与える
5	終末技 <ul style="list-style-type: none">• 終末技がない、あるいは A または B の終末技• C の終末技• D 以上の終末技	<p>0.00 を与える 0.30 を与える 0.50 を与える</p>

11.4 組み合わせ点 (CV) -D 審判団

組み合わせ点は直接の組み合わせに与えられる。

組み合わせ点は D スコアに加算される。

直接の組み合わせの公式

0.10	0.20
D + D (または以上)	D (同一棒または低棒から高棒への空中局面を伴う) + C 以上 (高棒での) (この順番で実施) D + E (2つ共空中局面を伴う)

すべての C/D 難度の技は空中局面か $\frac{1}{2}$ 以上のひねりを伴わなければならない。

もし演技が1分30秒(90秒)を超えた場合、演技時間超過の減点をする。

- -0.10
- 制限時間の90秒を超えた後に実施された技も、D審判団は価値を認め、E審判団はそれを採点する。
- 計時に関わる違反は、その都度計時審判員がD審判団に書式にて報告し、D審判団が最終スコアから減点する。

a) 落下による中断時間 :

器械からの落下による演技の中断は10秒まで許される。

- もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点-0.30が適用される。
- 計時審判員2は選手が落下後マットに立った時から計時を始める。
- 落下の間、時間は別に計測され演技時間には含めない。
- 落下時間は平均台に上がるために選手の足がマットから離れた時に終了する。
- 落下後、拳手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。
- 計時審判員1による演技時間計測の再開は、選手が平均台に再び上がった後、演技再開の最初の動きからとする。
- 落下の間、経過時間は秒単位でスコアーボードに表示される。
- 以下を合図（ゴング）で知らせる。
 - 中断の制限時間 10秒
- もし、選手が60秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

12.2 演技の内容

終末技を含む最大8つの高い順からの技が難度点として数えられる。

- アクロバット系の技は最大5つ
- ダンス系の技は少なくとも3つ

12.3 構成要求(CR) -D審判団 2.50

1 - 180度開脚(前後または左右)または左右開脚屈身のリープ、ジャンプ、ホップを1つは含む、少なくとも2つの異なるダンス系の技からなる組み合わせ	0.50 を与える
2 - ターン(グループ3)	0.50 を与える
3 - 1つの宙返りを含む、少なくとも2つの空中局面*を伴う技からなるアクロバット系シリーズ(同一技でもよい)	0.50 を与える
4 - 方向の異なる(前方/側方と後方)アクロバット系の技	0.50 を与える
5 - 終末技 <ul style="list-style-type: none">• 終末技がない、あるいはAまたはBの終末技• Cの終末技• D以上の終末技	0.00 を与える 0.30 を与える 0.50 を与える

*空中局面を伴う技は支持があってもまたはなくともよい。

注 :

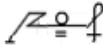
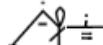
- 構成要求の1～4は台上で実施しなければならない。
- 接転系、倒立、姿勢保持の技で構成要求は満たせない。

12.4 組み合わせ点(CV)とシリーズボーナス(SB) -D審判団

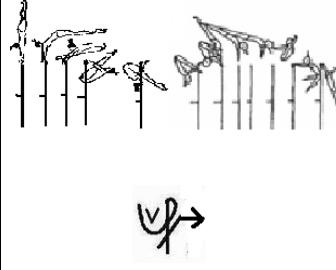
- a) 組み合わせ点は直接の組み合わせに与えられる。
- b) 組み合わせ点とシリーズボーナス(SB)はDスコアに加算される。
- c) シリーズボーナスは3つ以上のアクロバット系の技の組み合わせに与えられる。

【2015年グラスゴー世界選手権における新技】

*FIG Newsletter#38

種目	No.		難度	シンボルマーク	U R L
U B	4. 609	後方閉脚浮腰回転～屈身背面とび越し ～高棒懸垂	F		https://youtu.be/AJDvc0vK-ZQ
	1. 305	開始技：台の斜めへ、片足踏み切り、前へ 脚を交差した前後開脚とび上がり、手支 持なしで前後開脚座	C		https://youtu.be/f-3wqJxBudM
B B	1. 204	開始技：台に後ろ向きで立ち、後ろにと び上がり、台を支持して左右開脚座	B		https://youtu.be/50y2eVJETa8
	5. 307	アウエルバッハ後転とび1/4ひねりか ら倒立(2秒)、もどし方は自由 もし、さらに倒立1/2ひねりを追加し た場合は、2秒静止の要求はない	C		https://youtu.be/LeCSoHBHS04
F X	1. 102	鹿とび1/2ひねり	A		https://youtu.be/YXM7PPFd7JI
	4. 601	前方屈身2回宙返り	F		https://youtu.be/5EcmlLUQ5Ueo

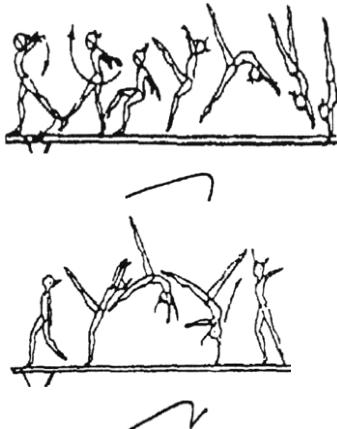
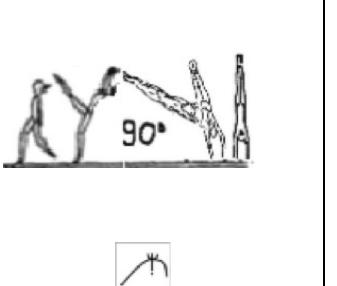
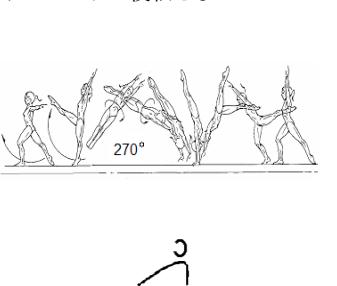
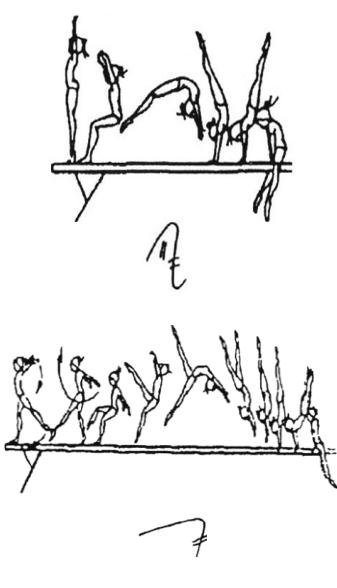
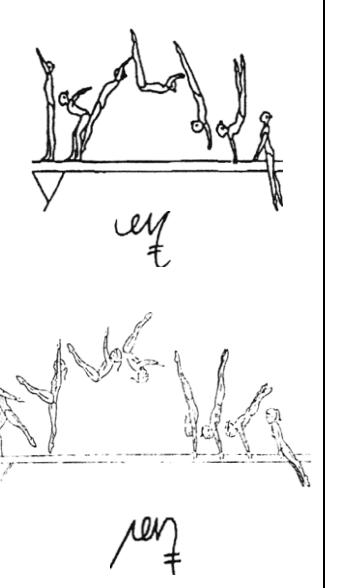
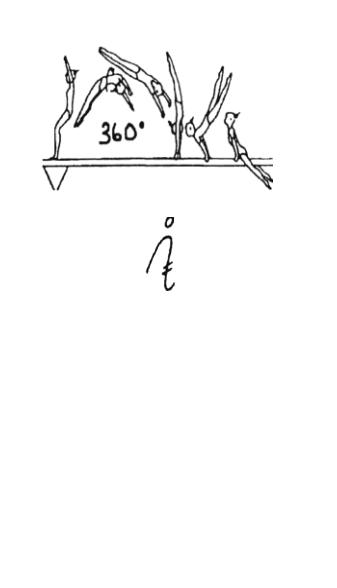
4.000 — STALDER CIRCLES

A	B	C	D	E	F/G
4.109	4.209	<p>4.309 後方閉脚浮腰回転前振り出し～ 切り返しを伴った上移動高棒懸垂</p> 	4.409	<p>4.509 後方閉脚浮腰回転～ (空中局面の前に腰を開いて) 開脚背面とび越し～高棒懸垂</p> 	<p>4.609 後方閉脚浮腰回転～ 屈身背面とび越し～高棒懸垂</p> 
4.110	4.210	4.310	4.410	4.510	4.610

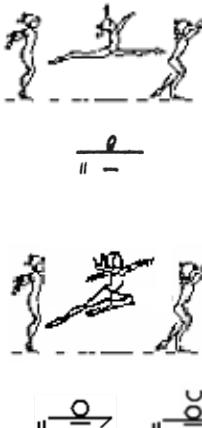
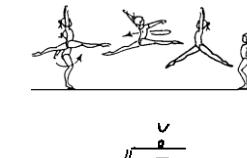
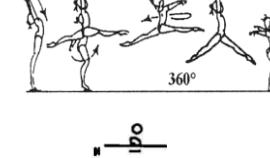
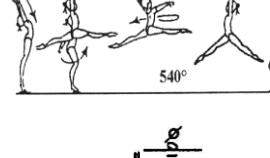
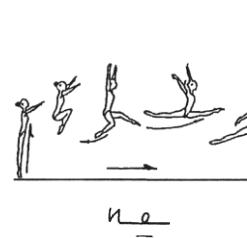
1.000 — MOUNTS

A	B	C	D	E	F/G
1.104	1.204 台の横へ、とび上がり1/2ひねり開脚浮腰支持、または台の横へ、後ろ向きで両足踏み切り、開脚屈身姿勢で台をとび越し正面支持、または左右開脚座	1.304 台の横へ、ロンダート、後ろへ開脚屈身とびで台を越え、後方支持回転	1.404	1.504 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(D) = ダンス系の技として数える</div>	1.604
1.105 (D) 両足踏み切り、左右開脚座、または開脚屈身（手の支持は認められる）または、台の斜めへ、片足踏み切り、とび上がり前後開脚座（手の支持は認められる）	1.205	1.305 (D) 台の斜めへ、両足踏み切り、支持なしでとび上がり前後開脚座、または、前へ脚を交差した前後開脚とび上がり、手支持なしで前後開脚座	1.405	1.505	1.605
1.106 台の横に立ち、脚をかかえ込む、または伸ばしたまま台を通過させて背面支持	1.206	1.306	1.406	1.506	1.606

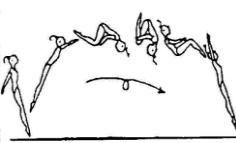
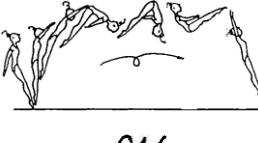
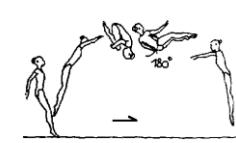
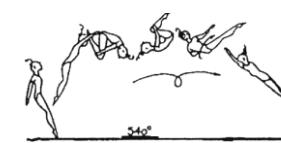
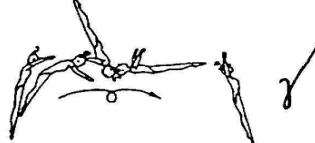
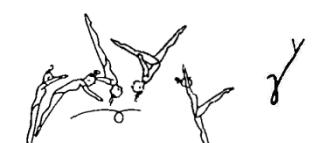
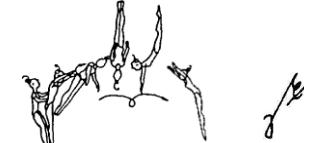
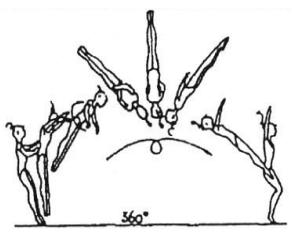
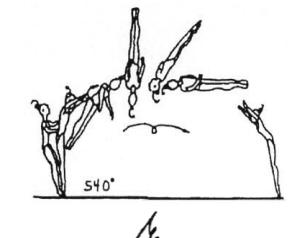
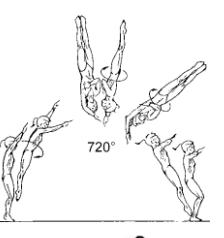
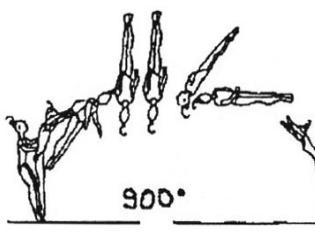
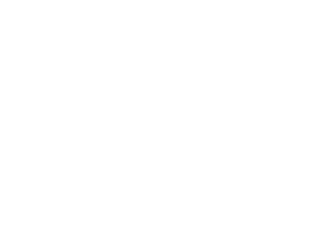
5.000 — ACROBATIC FLIGHT

A	B	C	D	E	F/G
5.107	<p>5.207 アウエルバッハ後転とび 片手支持のアウエルバッハ後転とび</p> 	<p>5.307 アウエルバッハ後転とび1/4ひねり から倒立(2秒)、もどし方は自由</p> 	<p>5.407 手支持の前に3/4ひねりをした アウエルバッハ後転とび</p> 	5.507	5.607
5.108	<p>5.208 高い空中局面を伴う後転とび、または アウエルバッハ後転とびから台をまた いだ座</p> 	<p>5.308 空中局面で屈身姿勢から伸身姿勢を とった後転とびまたはアウエルバッ ハ後転とびから台をまたいだ座</p> 	<p>5.408 手支持の前に1回ひねりをした後転とび から台をまたいだ座</p> 	5.508	5.608

1.000 – GYMNASTIC LEAPS, JUMPS AND HOPS

A	B	C	D	E	F/G
<p>1.102 両足踏み切り、前後開脚とび (開脚は180度)、 鹿とび、または1/2ひねり</p> 	<p>1.202 両足踏み切り、前後開脚とび1/2 ひねり</p> 	<p>1.302 両足踏み切り、前後開脚とび1回ひねり</p> 	<p>1.402 両足踏み切り、前後開脚とび1 1/2ひねり</p> 	<p>1.502</p>	<p>1.602</p>
<p>1.103 かかえ込みとび、空中で前後開脚 (180度)</p> 	<p>1.203</p>	<p>1.303</p>	<p>1.403</p>	<p>1.503</p>	<p>1.603</p>

4.000 – SALTOS FORWARD & SIDEWARD

A	B	C	D	E	F/G/H
4.101 前方宙返り (かかえ込み、屈身)	4.201 前方かかえ込み宙返り (1/2、1回) ひねり	4.301 前方かかえ込み宙返り 1 1/2ひねり	4.401	4.501 前方かかえ込み 2 回宙返り	4.601 – F- 前方かかえ込み 2 回宙返り 1/2ひねり
 <i>W</i>  <i>W</i>	 <i>W</i>  <i>W</i>	 <i>W</i>		 <i>W</i>	 <i>W</i>
4.102	4.202 前方伸身宙返り、または1/2ひねり	4.302 前方伸身宙返り (1回、1 1/2) ひねり	4.402 前方伸身宙返り 2 回ひねり	4.502 前方伸身宙返り 2 1/2ひねり	4.602
	  	 <i>360°</i>  <i>540°</i>	 <i>720°</i>  <i>W</i>	 <i>900°</i>  <i>W</i>	

LT	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700
1. 01	L L						
↑ 02	UL UL	TEL					
03	LL LL	LL LL					
04	rr rr	rr rrr	rr				
05	rr						
06	rr	rr rr	rr				
07	rr	rr	rr				
08	rr	rr	rr				
09			rr rr	rr rr	rr rr		
10			rr rr	rr rr	rr rr		
11				rr rr	rr rr		
2. 01	ll	ll ll	ll	ll			
ll		ll ll	ll				
02		ll ll	ll				
03		ll	ll	ll			
ll	o		ll	ll			
05	o o	ll ll	ll	ll			
06		ll	ll	ll ll	ll		
07		ll	ll				
3. 01		ll ll	ll	ll ll			
ll			ll	ll			
02			ll	ll			
03			ll	ll			
ll	ll		ll	ll			
04		ll	ll	ll	ll		
05			ll	ll	ll		
ll	ll		ll	ll	ll		
06		ll	ll	ll	ll		
07		ll	ll	ll	ll		
08		ll	ll	ll	ll		
09		ll	ll	ll	ll		
10		ll	ll	ll	ll		

LT	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700
4. 01	⊗-	⊗*	XX XX	XX			
X 02		⊗.	XX	XX	X	X	
03	⊗-				XX XX	XX XX	
04	⊗		XX XX	XX	XX		
05			XX	XX	XX	XX	
06	⊗		XX XX	XX	XX		
07	⊗		XX XX	XX	XX		
08			XX	XX	XX	XX	
09			XX	XX	XX	XX	
5. 01	⊖	⊖ ⊖ ⊖	⊖ ⊖ ⊖	⊖ ⊖ ⊖	⊖ ⊖ ⊖	⊖ ⊖ ⊖	⊖ ⊖ ⊖
⊖ 02		⊖	⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
03			⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
04	⊖		⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
05	⊖		⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
06	⊖		⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
07	⊖		⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
08	⊖		⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
09			⊖	⊖	⊖	⊖	⊖
6. 01	EE EE	EE	EE	EE	EE	EE	EE
↓ 02	EE EE	EE	EE	EE	EE	EE	EE
03			EE	EE	EE	EE	EE
04	EE						
05	EE						
06			EE	EE	EE	EE	EE
07			EE	EE	EE	EE	EE
08	EE						
09	EE						
10	EE						

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
1.01	✓	✓	✓				
1.02	✓						
1.03	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
1.04		✓	✓				
1.05	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
1.06	✓						
1.07	✓						
1.08	✓	✓	✓				
1.09		✓	✓	✓	✓	✓	
1.10		✓	✓	✓	✓	✓	
1.11		✓	✓	✓	✓	✓	
1.12		✓	✓	✓	✓	✓	
1.13		✓	✓	✓	✓	✓	
1.14	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
1.15	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
1.16			✓	✓	✓	✓	✓
1.17			✓	✓	✓	✓	✓
1.18			✓	✓	✓	✓	✓
1.19			✓	✓	✓	✓	✓

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
2.01	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.02	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.03	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.04		✓	✓				
2.05			✓	✓	✓	✓	
2.06			✓	✓	✓	✓	
2.07	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.08	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.09	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.10	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.11	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
2.12	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
3.01	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
3.02		✓	✓	✓	✓	✓	
3.03		✓	✓	✓	✓	✓	
3.04		✓	✓	✓	✓	✓	
3.05		✓	✓	✓	✓	✓	
3.06	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
3.07	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
3.08	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
4.01	✓						
4.02	✓	✓					
4.03	✓	✓	✓				
4.04	✓	✓	✓	✓			
4.05		✓	✓	✓			
4.06		✓	✓	✓			
4.07		✓	✓	✓			
4.08	✓	✓	✓	✓			
4.09	✓	✓	✓	✓			
4.10	✓	✓	✓	✓			
4.11	✓	✓	✓	✓			

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
5.01	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
5.02		✓					
5.03		✓	✓	✓	✓	✓	
5.04		✓	✓	✓	✓	✓	
5.05	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
5.06	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
5.07	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
5.08	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
5.09		✓	✓	✓	✓	✓	
5.10		✓	✓	✓	✓	✓	
5.11		✓	✓	✓	✓	✓	
5.12		✓	✓	✓	✓	✓	
5.13		✓	✓	✓	✓	✓	
5.14		✓	✓	✓	✓	✓	
6.01	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
6.02	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
6.03	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
6.04	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
6.05		✓	✓	✓	✓	✓	
6.06	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
6.07	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

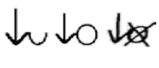
	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500
1.	01	ꝑ Ꝓ Ꝕ	ꝑ Ꝕ	ꝑ Ꝕ ꝓ	ꝑ
	02	ꝑ Ꝕ Ꝕ	ꝑ	ꝑ	ꝑ
	03	ꝑ			
	04	ꝑ	ꝑ	ꝑ	
	05	ꝑꝑ	ꝑꝑ	ꝑꝑ	
	06	ꝑ	ꝑ	ꝑ ꝑ	
	07	ꝑ Ꝕ Ꝕ	ꝑ Ꝕ Ꝕ	ꝑ Ꝕ Ꝕ	ꝑ Ꝕ Ꝕ
	08	ꝑ Ꝕ Ꝕ	ꝑ Ꝕ		
	09	ꝑ Ꝕ Ꝕ	ꝑ Ꝕ	ꝑ Ꝕ	ꝑ Ꝕ
	10	ꝑ	ꝑ		
	11	ꝑ	ꝑ		
	12	ꝑ	ꝑ	ꝑ	
	13	ꝑ	ꝑ Ꝕ		
	14	ꝑ Ꝕ	ꝑ Ꝕ Ꝕ	ꝑ	
2.	01	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ
	02	ꝑ		ꝑ	
	03	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ
	04	ꝑ	ꝑ		
	05	ꝑ			
	06	ꝑ	ꝑ		
	07	ꝑ Ꝕ	ꝑ	ꝑ Ꝕ	ꝑ Ꝕ
	08	ꝑ	ꝑ		

	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700	H - .800	I - .900
3.	01	ꝑ Ꝕ Ꝕ							
	02	ꝑ							
	03	ꝑ	ꝑ						
	04	ꝑ Ꝕ							
	05	ꝑ ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ				
	06	ꝑ							
	07	ꝑ ꝑ ꝑ	ꝑ						
4.	01	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ
	02	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ
	03	ꝑ							
	04	ꝑ ꝑ							
	05	ꝑ	ꝑ			ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ	ꝑ ꝑ
5.	01	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ
	02				ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ	ꝑ
	03								
	04	ꝑ	ꝑ	ꝑ					
	05	ꝑ	ꝑ						
	06	ꝑ	ꝑ						

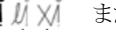
【ヘルプデスク 日本語版】(2014年3月発行) 追加情報と訂正 (*Help Desk 5 edition 2015 march)

頁	追加修正	章・節	変更前	変更後
1	追加 変更	2.1 選手の権利	<p>選手に原因がない中断の例：</p> <ul style="list-style-type: none"> —器械器具の故障または破損 —照明の故障 —音響装置の故障 <p>(もし選手が演技を続けている場合、上級審判部は音楽がなくなった部分の芸術性と振り付けの減点はしないよう審判員に求めることができる。もし選手が演技を中断した場合、演技のやり直しを要請できる)</p> <p>選手に原因があった中断の例：</p> <ul style="list-style-type: none"> —プロテクターの破損 —包帯がほどける —合図なしに演技を開始する 	<p>選手に原因がない中断の例：</p> <ul style="list-style-type: none"> —器械器具の故障または破損 —照明の故障 —音響装置の故障 <p>(もし、第1アクロラインより前に音楽が止まってしまった場合、選手は演技を始めからやり直すことができる。しかし、すでに第1アクロラインを実施してしまった後であれば、選手は演技を続けなければならない。その場合、音楽がなくなった部分の芸術性と音楽の減点はない。)</p> <p>—ハンドガード（プロテクター）の著しい破損</p> <p>次にあげる事由は、選手の責任となる：</p> <ul style="list-style-type: none"> —包帯のゆるみ —合図なしに演技を開始する
1	追加	2.1.2 練習	チームには跳馬を除いて予選（競技I）と団体決勝（競技IV）で練習時間の合計が与えられる。	チームには跳馬を除いて予選（競技I）と団体決勝（競技IV）で練習時間の合計が与えられる。 跳馬の練習については第10章を参照
2	追加	(新たな追加項目)	<p>2.3.2 競技の服装</p> <p>f)現行のFIG広告規定に従い、自国のマークまたはエンブレムをレオタード/ユニタードに付けなければならない。</p> <p>推奨：競技中の混乱や減点の適用を回避するために、もしレオタードの生地に自国のマークが埋め込まれている場合でも、自国のマークをつけることを推奨する。</p>	
5	追加	(新たな追加項目)	もし選手が跳躍や演技を試みなかった場合、得点なし、順位なしとなる	
			■試みないとは：選手が演技台に姿を見せない、または跳躍板や器具に触れて示す。	
7	変更	7.2.2 技の承認 FX	(後ろ足が肩より低い／ または前脚が水平より下)	(後ろ足が肩の高さ／ または前脚が水平より下)
8	追加	7.4 組み合わせ点	青色の8つの難度をDVとして数える。また最後のA難度のダンス系の技は、8つの高い難度に入ってないが、組み合わせ点に使うことができる。	青色の8つの難度をDVとして数える。また最後のA難度のダンス系の技は、8つの高い難度に入っていないが、組み合わせ点に使うことができる。 (アクロバット系の技は最大5つ、ダンス系の技は少なくとも3つ)
9	追加	(新たな追加項目) 7.4.1 直接の組み合わせと間接 の組み合わせ	直接の組み合わせは技が以下のような実施なしに行われたものをいう： a)技と技の間に止まり 止まりとは全く動いていないこと（全ての身体の部分） e)2つ目の技のために踏み切る前の1つ目の技において明らかに脚/腰の曲げ伸ばし	 https://youtu.be/MWO6qQuSrdk

15	追加	着地での欠点 (新たな追加項目)	<p>・マットに膝または尻をつく/落下、または器械にもたれる：1.00</p> <p>跳馬</p> <p>例 もし選手が着地後に直ちに前方宙返りをしてから立った：これは転倒とみなす(1.00) ※着地後の宙返りに対しての減点は適用しない</p> <p> https://youtu.be/OAiP1uFd1zQ</p> <p>ゆか</p> <p>例 選手が転倒をしたが、そのまま止まれずに他の技を実施することなく途中でさらに転倒をした場合は、1回の失敗の減点(1.00)のみ</p> <p> https://youtu.be/yjeX2IZqgUw?list=PLNYqWWimG-MUpc3cLmGjb17KYr8GbBuO</p> <p>例 着地のあとに前転または後転を実施した場合は転倒とみなす(1.00) ※着地後の前転、後転に対しての減点は適用しない</p> <p> https://youtu.be/NmAlg5gb00</p>
16	変更	段違い平行棒	マットにかける 0.30+その他の減点 (器械に大変近い実施、ステップなど)
16	修正	実施の定義	平均台の片足または両足着台の時、足または最初の足がまったく触れなかった場合
17	変更	コーチの行動	<p>一段違い平行棒での補助行為 (演技を助ける) :- 1.00,DV,CV,CR なし</p> <p>-平均台とゆかでの補助行為：</p> <p>-1.00,DV,CV,CR なし+認められていない補助者が演技台にとどまる - 0.50</p> <p>-跳馬での補助行為 : 0.00 (無効となる跳躍) しかし、もうすでに 0.00 の為、補助者が演技台にとどまる減点はしない</p>
20	修正	ゆか	もしグループの中で3名以下の選手になった場合、・・・
20	修正	ケース 1	もし、次の選手が器具に上がって演技を開始した場合 (例えば、平均台の跳躍板からジャンプする)

20	修正	ケース2	もし、次の選手が練習を行った場合	もし、次の選手が演技台で練習を行った場合
22	追加	伸身姿勢（ゆか）	もし、選手が2回目の宙返りの回転を助けるために大腿部をつかんだ場合、後方屈身2回宙返りとみなされる。	 https://youtu.be/OpxIV72Aow
23	修正		直接の宙返りの連続	宙返りの直接の組み合わせ
23	追加	(新たな追加項目)	<p>ダンス系の技の直接の組み合わせ</p> <p>180度またはそれ以上のひねりを伴うジャンプ、ホップ、リープでの適用</p> <p>ゆか：ひねりを伴うジャンプ、ホップ、リープの技が、難度表にある他の技*に直接組み合わされた場合、最初の技が正確にひねりを完了しなくとも、(最大45度までの不足で選手が次の技に続けることができた場合)</p> <p>最初の技の難度価値は下がらない、または難度表にある他の難度になることはない。組み合わせの最後の技は正確に技が完了されなければならない。</p>	 https://youtube/0q-Q2X7BtTA
24	追加	イリュージョンターン 	<p>踵が下りることは、その技の実施において技術的に重要ではない。</p> <p>ターンの完了は、肩と腰の位置と浮脚が下りた時点で決定される。</p>	
26	修正	ジョンソン (1つ目)	両脚が水平以上で・・・	両脚が水平より上で・・・
26	修正	ジョンソン (2つ目)	両脚が水平より低く、さらに平行ではない場合、	両脚が水平の位置、またはそれより下で平行でない場合、
27	変更	輪とび（リープ） (2つ目)	後ろ足が肩より低い	後ろ足が肩の高さ
27	追加	輪とび（リープ）	<p>(表の3段目に追加)</p> <p>後ろ脚の曲がり >135°</p> <ul style="list-style-type: none"> - 0.1 後ろ足が肩の高さ、またはそれより下 - 0.1 後ろ脚の曲がりが不十分 (>90°) - 0.1 アーチ姿勢が不十分の場合 	
27	変更	輪とび（リープ） (3つ目)	前脚が水平より下および 後ろ足が肩より低い	<p>前脚が水平より下および 後ろ足が肩の高さ</p>  https://youtu.be/TvDq89U4sxs

28	変更	輪とび	<p>輪とびは、後ろ脚を曲げても伸ばしても減点はない</p>	<p>輪とび (両足踏み切り)</p> <p>輪とび (両足踏み切り) は後ろ脚を曲げても (90°) 伸ばしてもよい。</p> <p>もし後ろ脚の曲がりが不十分、または後ろ脚が伸びているがわずかに緩んでいる場合は – 0.1 の減点</p> <ul style="list-style-type: none"> – 0.1 アーチ姿勢が不十分な場合 – 0.1 後ろ脚の曲がりが不十分 (>90°) <p>実施によって減点は第8章参照</p> <p>(例えば開脚が不十分／つま先が伸びない)</p>
29	修正	かかえ込みとび	<p>膝が水平</p> <p>実施減点 – 0.30</p>	<p>膝が水平</p> <p>実施減点 – 0.10</p>
34	変更	1.409	<p>もし、ひねりが完了していても、足が肩より低かったり・・・</p>	<p>もし、ひねりが完了していても、足が肩の高さであったり、・・・</p>
34	追加	(新たな追加項目)	<p>「片足踏み切り前後開脚とび1回ひねりから輪」と「両足踏み切り前後開脚とび1回ひねりから輪」は同一技</p>	
37	修正	前振り 1/2ひねり低棒とび 越し低棒倒立	<p>*もし選手が低棒を握り、低棒を越えてその後に落下 (棒間) した場合、次の技に続けることができなくとも、難度は与えられる</p>	<p>*もし選手が低棒を越え、低棒を握ってから落下した場合 (棒の外側)、次の技に続けることができなくとも、難度は与えられる</p>
39	追加	10.1 一般規則 (新たな追加項目)	<p>一跳馬の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技 I 、競技 II 、競技 IV – 2 回の練習が認められる ・競技 I (競技 III のための予選) – 最大 3 回まで <p>注 : 線審は練習の回数を数える。</p> <p>練習での助走</p> <p>次の場合、練習での試みとみなされる :</p> <p>例 1 : 助走から前転とびを実施、その後すぐに跳躍台に上がり宙返りを実施 – 2 回の試みとみなす</p> <p>例 2 : 助走をして駆け上がるまたは踏み切って跳躍台に上がり、その後宙返りを実施 – 1 回の試みとみなす</p> <p>例 3 : 助走路上でのどんな助走も 1 回の試みとみなされる (公式練習の最初の試みの前に、跳躍台の反対方向へ助走路上を走ることは除く)</p> <p>選手が互いの練習を邪魔しないことが大切である</p> <p>10.2 助走</p> <p>“内容のない助走”とみなされる場合 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2 歩では内容のない助走とみなさず、加速があるもの。 	
40	追加	10.4.1 レーンに関する減点	<p>ライン減点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし選手の片足が境界線の外側に踏み出た後、レーンの内側に戻し、その後再び同じ足または他の足が外側に踏み出た場合 – 0.10 の減点が 2 回 ・もし選手が境界線の外に膝をつけた場合 – 0.30 の減点 	

41	修正	10.6 種目特有な実施減点	グループ3 第1空中局面で1/4ひねり(90度)から1/2ひねりを伴う跳躍	グループ3 第1空中局面でのひねりは1/4(90度)～1/2(180度)のひねりが認められる
48	修正	11.3 構成要求	4 空中局面を伴わない360度以上のひねりを伴う技(中技のみ)	4 空中局面を伴わない360度以上のひねりを伴う技(開始技は除く)
52	修正	内容のない振り	後方支持回転	後方支持回転のあと
53	修正	減点の定義 例: 	内容のない振りになった場合 -減点は実施の過失	-実施の欠点も減点をする
54	追加		<p>■中間振動の減点の適用</p>  https://youtu.be/ZL2MEepT9CQ <p>■器械上への落下の減点の適用</p>  https://youtu.be/3ZFZ2BSzZUo <p>技において、ひねりを実施しようとする明らかな意図がない場合(難度点が与えられる、または与えられない)、中間振動または落下のみの減点を適用する。膝の曲がり、脚の開き、またはひねりが遅いことに関する減点はしない。</p>	
54	削除	中間振動の減点の適用	中間振動(1回目)-0.50、中間振動(1回目)-0.50+中間振動逆上がり-0.50	
55	修正		-腰を伸ばして高棒を越える切り返しの離れ技	-高棒を越える切り返しを伴う空中局面の技で腰の伸ばしがない
56	追加	具体的なケース 選手が落下した後にコートが触った場合、「補助行為」の減点はしない	減点: -空中局面を伴う技の高さ - 0.10 -回転不足 - 0.10 -腕の曲がり - 0.30	
56	修正	特別な技	これは、採点規則集に載っていないが、もし身体のひねりがなく、手の握り換えのみの実施だった場合、  または  として認める。	採点規則に記載されていないが、もし実施された場合は  として承認。または手の握り換えのみで身体のひねりがない場合は  として承認する。
58	追加	#1.101 け上がり	一低棒け上がり1/2ひねり(1.101)は、前とび1/2ひねり低棒け上がり(1.102)とは異なる。 一したがって、選手は開始技(1.102)、低棒け上がり(1.101)、そして低棒け上がり1/2ひねり(1.101)の3つの技を実施することができる。	
60	修正		■開始技で片足または両足での着台に失敗し、その後落下した場合選手が台に触れているため、開始技なしとなる。……	■開始技で片足または両足での着台に失敗した場合、選手は跳躍板に触れているため開始技なし、そして落下となる。……
61	修正	12.4 組み合わせ点 (3つ目の注釈)	CVなし、2つ目の技が後方	CVなし、2つ目の技の踏み切りが後方
62	追加	ダンス系と混合 (新たな追加項目)	前へ脚交差した前後開脚とび+アウエルバッハ宙返りの組み合わせ 組み合わせ点を得るために、浮脚を後方へ振り戻してはならない(後ろ脚は直ちに前方へ振り、宙返りへ、または宙返りの踏み切りのために前方へ踏み出さなければならない)	 https://youtu.be/PbjjK4EBn3U

63	追加	12.6 種目特有な実施減点 (新たな追加項目)	<p>– “平均を保つための余分な動き : – 0.10 / – 0.30 / – 0.50”</p> <ul style="list-style-type: none"> –わずかなバランスの欠如 : 0.10 –頭が腰の高さまたは複数のわずかな動き : 0.30 –身体／脚の大きな動き : 0.50 <p>同じ技での複数の過失に対する最大の減点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平均を保つための余分な動き 0.10 + 平均台をつかむ 0.50 = 0.50 • 平均を保つための余分な動き 0.30 + 平均台をつかむ 0.50 = 0.50 • 平均を保つための余分な動き 0.50 + 平均台をつかむ 0.50 = 0.50 • 平均を保つための余分な動き 0.50 + 器械をかする 0.30 = 0.50  <p>https://youtu.be/BxALCrxa7f8</p> <ul style="list-style-type: none"> • 深いしゃがみ立ち 0.50 + 平均を保つための余分な動き 0.10 = 0.60 • 深いしゃがみ立ち 0.50 + 平均を保つための余分な動き 0.50 = 0.80 • 深いしゃがみ立ち 0.50 + ステップ (0.30+0.10) = 0.80 • 深いしゃがみ立ち 0.50 + 器械をかする 0.30 = 0.80 • 深いしゃがみ立ち 0.50 + 平均を保つための余分な動き 0.50 + 器械をかする 0.30 = 0.80 • 着地での姿勢の欠点 0.30 + 平均を保つための余分な動き 0.50 = 0.80 <p>もし選手がしゃがみ立ちでのターンのあと、バランスを崩した場合—バランスの欠如 0.10/0.30 の減点を適用する</p>  <p>https://youtu.be/2okDVBSPIvM</p>
64	修正	技の承認のためのガイドライン	<p>定義: 1/4 ひねりを伴うダンス系の技 (リープ / ホップ / ジャンプ) は異なる技にならない (1 つ目の注釈) 1/4 ひねり = 難度なし</p> <p>定義: 1/4 ひねりを加えたダンス系のリープ / ホップ / ジャンプは、異なる技にはならない。 1/4 ひねり = ひねりなし</p>
65	追加	後方伸身宙返りにおける伸身姿勢の承認のためのガイドライン	1 つ下の難度 (D) となった場合、身体の姿勢の減点は適用しない。伸身姿勢を保てないの減点は適用することができる。
65	追加	(新たな追加項目)	5.409 の技 アウエルバッハ側方開脚伸身宙返りと片足踏み切り、側方開脚伸身宙返りは同一技 5.410 の技 アウエルバッハ前方開脚伸身宙返りと片足踏み切り、前方開脚伸身宙返りは同一技
65	追加	(新たな追加項目)	1.311、1.411 の技 もし、閉脚浮腰姿勢で下ろすときに台をかすった場合、選手が続けることができたならば、難度点を与える、かすったことに対する減点はしない。しかし、膝の曲がりに対する減点は適用することができる。
67	追加	13.1 一般規則 (新たな追加項目)	<p>境界線からの踏み出し</p> <ul style="list-style-type: none"> • もし選手の片足が境界線の外側へ踏み出た後、境界線の内側へ戻し、その後再び同じ足もしくは他の足が外側へ踏み出た場合 — 0.10 の減点が 2 回 • もし選手が境界線の外に膝をついた場合 — 0.30 の減点

69	追加	13.4 組み合わせ点 (新たな追加項目)	一部のアーチバット系の直接の組み合わせと混合の組み合わせでは、二つ目の技の踏み切りが、一つ目の技から直ちに跳ね返らず、吸収してからの踏み切りでも組み合わせとして認められる。  https://youtu.be/w8x_ChnBjw4
69	追加	アーチバット系シリーズ (新たな追加項目)	後方伸身2回宙返り～後方開脚伸身宙返り 後方開脚伸身宙返りの着地の際、ランジポジションをとってもステップとはみなさないため、減点はない  https://youtu.be/8EurRdO8wuE
69	追加	1.306 バタフライ (新たな追加項目)	A V 前方バタフライ、後方バタフライの実施例  https://youtu.be/pwfSy2iy5i0
70	追加	13.5 芸術性と振り付けの減点 (新たな追加項目)	音楽が止まったが、選手が演技を続けた場合、審判員は音楽に関する減点は適用しない。
71	追加	種目特有な実施減点 -タンブリングの準備	・様式化された身体と腕の動きは音楽と同調しなければならない
71	追加	(新たな追加項目)	-停止 ・腕の動きを伴わない、または腕の動きが音楽のスタイルに関連した表現を示さずに1秒より長く静止している場合、停止とみなす。 ・静止姿勢とは、片足または両足（つま先立ち、またはつま先立ちではない）でとどまる事を意味する。
71	追加	技の配分	・演技が始まって直ちにタンブリングに入る：- 0.10 注：減点を避けるためには、場所を移動しなければならない（他方へ移動する動き）。両足をゆかから離し体重移動をしなければならず（同時または交互に）、そうでなければ減点が適用される。
71	追加	(新たな追加項目)	-技の構成 2つのアーチラインの間の振り付けは、技を含んでもよい。しかし1つの技のみでは振り付けとしては認められず、技は振り付けの中に含まれていなければならない。アーチラインの間に十分な振り付けがあったとしても、同じ方向に動きを続けた場合、その後のアーチラインに減点が適用される。
71	追加	(新たな追加項目)	もしアーチラインで転倒し、転倒後、次のアーチラインを実施する場合： 以下の減点は適用しない ・コーナーにつなげる ・同じ対角線で次のアーチラインを実施する ・停止 ・6番のポジションで立つ 転倒後、選手が他のコーナーに移動し、タンブリングを実施した場合、“同じ対角線で次のアーチラインを実施する”を除く上記のすべての減点を適用する。
72	修正	-運動の大きさ	(2つ目の例) 十分に伸ばされた腰および開脚 (高くまで上がっている)
72	修正		- 0.10 肩と腰の運動の大きさ不十分／ 不十分な開脚

【2013 採点規則およびヘルプデスクの変更に伴う国内対応について】

<情報 22 号記載事項およびヘルプデスク記載事項>

第 6 章

注：もし選手が跳躍や演技を試みなかった場合、得点なし、順位なしとなる

(試みないとは：選手が演技台に姿を見せない、または跳躍板や器具に触れて示す)

<国内対応>

国内競技会においては、従来認められていたように、緑ライトの点灯またはD1審判員からの演技開始の合図の後、選手がD審判員に挨拶をし、跳躍板や器具に触れてから再び挨拶することで 0.00 点として扱うこととする。(すべての種目)